

研究所だより

第417号
2020年 7月14日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ あした浜辺を さまよえば 昔のことぞ しのばる
風の音よ 雲のさまよ 寄する波も 貝の色も ”

『浜辺の歌』 1916(大正5)年 唱歌・歌曲



～ 半夏生・小暑 待ち遠しい梅雨明け! ～

梅雨前線の影響による記録的な豪雨によって、九州を中心に各地で多くの生命が犠牲となり、住宅の浸水や土砂崩れによる倒壊などの甚大な被害をもたらしました。気象庁は、これまでの雨で新たな災害のリスクが高まっており、土砂災害、河川の増水・氾濫、浸水に嚴重な注意を呼び掛けています。土砂降りの雨が頻繁に降る高知県も油断できません。早めの情報収集、命を守る行動を心掛けましょう。

沖縄県では平年より早い梅雨明け、夏の到来となりましたが、高知県の週間予報では雨マークが続き、まだまだ梅雨明けは期待できそうもありません。快適に梅雨を乗り切るために、新型コロナウイルスや熱中症対策と合わせて色々な対策を準備しておきたいものです。

★第1回特別支援教育コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)★

2020年度第1回特別支援教育コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を7月2日に開催しました。

第1回は、初めての先生方が多いこともあり、アイスブレイク技法の一つである「2種類のしりとり」を行いました。一つ目は「前の人の言った単語を言ってから話す」。例えば、「リンゴ」に対して「リンゴ、ゴリラ」、「ゴリラ、ラジオ」となります。二つ目は「前の人の言った単語の一文字を使って話す」。例えば、「リンゴ」に対して「リス」でも「ゴマ」でもOKという感じです。少しの時間で緊張がほぐれるゲームです。緊張がほぐれたところで自己紹介をしました。「自分の名前を言って、実は私は～です」とお互い紹介し合いました。これらのスキルは、学級経営、仲間づくり等の取組で活用できると思います。

協議では橋本研究員から「あすなろネットワークの歴史や目的、昨年度の取組、県・市の不登校、欠席の現状、欠席実態調査について、あすなろネットワーク担当者としての役割等」と年間計画について説明し、意見交換を行いました。第2回連絡協議会は、8月28日(金)に宮上指導主事を招聘して「個別の教育支援計画、個別の指導計画、引き継ぎシート」などについて研修を行います。



「アイスブレイク・笑顔で自己紹介」



「協議・情報交換」



学級を予防的に見る 特別編

(教育ジャーナル2020年 Vol.2) から

<見通しが立ちにくい新年度スタートに備える>

今回は「大幅に遅れた新年度スタートに備える」と題して、新型コロナウイルス感染拡大による長期休業からの学校再開に備えて、どんなことをしたら良いのかを考えていきます。

各教科・学年の最重要指導事項を知る



学校が再開し授業がスタートしても、長期間の休業により授業時間は大きく不足しますし、復習の時間も必要になります。

そのため、例年より短い時間で各単元を終わらせることが求められます。そのときに、各学年、各教科の重要事項や子供たちがつまづきやすい内容などは、定着に必要な時間を確保しなければなりません。

学年で話し合っ、ふだんより細やかに学習進度、指導内容を共通理解して授業を進行していきます。

例えば、小学校2年生のかけ算は、覚えるまでに時間がかかります。ここを無理に短縮したりすると、その先の算数・数学の学習に大きな支障が出てしまいます。

このような重要な内容は、なるべく早い時期に指導を行います。そうすれば、確実に時間が確保できますし、それ以降の朝の会や帰りの会でかけ算九九の暗唱をするなど、定着のための反復学習が長い期間をかけられます。

また、文部科学省は、「家庭学習で十分な学習内容の定着が見られ、再度指導する必要がないものと学校長が判断したときには、再度学校で取り扱わない」ということを認めていますから、重要指導事項の見極めと併せて、「家庭での自学で定着が期待できる内容」も検討し、宿題などの課題として平行して対応できるように準備しておきましょう。

学年の縦のつながりを意識して教材研究

ふだんの教材研究は、目前の授業のためのものになりがちです。この機会を生かし、教科の学年の縦のつながりを意識した教材研究をします。それにより、教員も保護者も、長期休業で学力差が開いた子供たちの実態に寄り添った指導に取り組めるようになります。

例えば、小学校の算数で小数のわり算を学ぶまでに、引き算→かけ算→わり算→あまりのあるわり算→小数のわり算という順番で学習をしていきます。教材研究においても、この順番で研究を進め、指導のためのノートを作っていきます。ノートは、左ページに教科書の解説ページのコピーを貼りつけます。そして右ページに指導のコツ(解き方を指導する方法や説明の言葉など)を記入していきます。

これにより、子供がわり算の学習でつまづいたとき、その子がつまづいたところまで順に遡り、指導できるようになります。

逆に、すでにその学習内容につながる課題を与えるということもできるでしょう。

さらに、指導のコツの部分のノートを保護者にわかりやすいような平易な表現でまとめておきます。保護者の方が家庭で、宿題や弱点補強に使えるようにノートをコピーして渡します。これにより、学習の教え方に不安を感じている保護者の方も「先生と同じ教え方」と自信を持って教えることができます。



学年を縦断した(縦の)関連を意識して教材研究

縦の関係を意識して教材研究

ふだん以上に注意深く見守る

長く休みが続き、生活習慣が乱れている子や、ずっと家にいてストレスをため込んでいる子がたくさんいるでしょう。友達と長い間会えなかったり、クラス替えで知っている子が少なかったり、言葉にできない孤独を感じている子などもあります。学校再開時には、ふだん以上に細心の注意を払い、子供たちを見ていかなければなりません。

そうしたときには、声の大きさや体全体のこわばり、手先などをよく見て、緊張している様子の有無などを確認していきます。

また、指導の中でも、こまめにストレッチや深呼吸をしたり、冗談を多めにしたりして、緊張感を少しずつほぐしていきます。

楽しい遊びを毎日1つ取り入れ、「学校は楽しいところ」とのメッセージを伝えます。

他方で、「家と学校は違う。学校は友達と一緒に学ぶところ」という面も、優しくしっかりと伝えることで、「なんでもあり」の学級にならぬよう学級全体を調整していきます。

ふだん以上に「一人ずつ目を見て、声をかける」ことを心がけ、さりげなく家庭でどのように過ごしてきたかなどを聞いてみることも大切です。突然、泣いてしまう子については家庭にも様子を伝えましょう。その際、「ゆっくり慣れていきましょうね」など、保護者に安心を感じさせるように伝えましょう。

教師間の良好な関係づくり

先生方の中での情報共有も重要です。子供の様子について気づいたことを伝え合うなど、情報を共有し合い、教師全員で全ての子供たちを見ることができるようになれば理想的です。そのためには、先生方の中での良好な関係づくりが大切になります。

年度が変わると人も入れ替わります。その中で相互理解を深め、良好な関係を築くには、いろいろと話をし、互いに多様な側面を知ることが効果的です。

少し仕事から離れた雑談をすることも、ときには必要ではないでしょうか。知らなかった側面を知り打ち解けやすくなることもあります。

周りの先生方に学ぶということも、今だからできることかもしれません。「子供の異変にどうしたら早く気づけるのだろう」など、周りの先生から学びたいと思ったことについて、相手の先生が時間に余裕がありそうな機会を見計らい、教室に伺って

「教えてください」とお願いしてみましよう。意外にいろいろと教えてくれるのではないのでしょうか。

同僚の実践に敬意を払い、そこから学ぶ。それは、良好な関係があればこのことであり、相互理解を一層深めることにもなります。

過去に例のない難しい状況に対応していくのですから、一人で抱え込まず先生方の力を合わせて対応していきたいものです。



お知らせ

市民図書館より新しいDVDの紹介

皆様のご利用をお待ちしています。

〔問い合わせ：市民図書館 82-4151〕



★DVD（平和教材）

①「あの日、僕らは戦場で」73分

沖縄戦の際、少年ゲリラ部隊「護郷隊」の名で戦った少年たち。戦後70年経った今、30人余りの少年兵はこれまで秘められてきた事実を、証言と新に発掘された資料から、子ども達が戦争に利用されていったしられざる歴史をアニメドキュメントで伝える作品です。

②「きのこ雲の下で何が起きていたのか」65分

きのこ雲の下での広島では何が起きていたのか、原爆投下直後に撮影された2枚の写真を分析し、写真に写っていた方の証言を元に被爆直後の広島で何が起きていたのかを詳細に分析したドキュメンタリーです。

③「映像の世紀/NHKスペシャル第一集/20世紀の幕開け」74分

カメラは歴史の断片をとらえ始めた

第1集では王朝国家が終えんを迎える19世紀末から第一次世界大戦までを紹介。1900年のパリ万博を初めライト兄弟の飛行機の発明や大英帝国のヴィクトリア女王の葬儀、ロシア革命で処刑されるニコライ二世一家、第一次世界大戦の導火線となったオーストリア帝国皇太子の暗殺事件当日の映像等々、激動の20世紀の幕開けをビビッドに描く。

④「花へんろ 特別編 春子の人形」90分

昭和初期の四国、松山。お遍路道に沿った商家の軒下に、人形と一緒に赤ん坊が置き去りにされていた。その赤ん坊は「春子」と名づけられ、少年良介の3歳違いの妹として仲むつまじく育てられる。やがて戦争が始まり、良介は海軍兵学校に合格して松山を出る。春子は兄に会いたいと海を渡り、広島へたどりつく。それは、1945年8月5日のことだった。

これからの日本へ、脚本家早坂 暁が託したメッセージである。

①



②



③



④

